

未来へ。

11月9日、加藤章市長が市役所に初登庁し、2期目のまちづくりがスタートしました。先人が築いた大好きなまち東温市を、さらに良くし、未来へつなげたい。――。まちづくりに込めた想いをインタビューしました。



加藤 章市長
かとう・あきら (72)

1948年旧重信町生まれ。神戸大学卒業後、重信町役場入庁。旧2町の合併後、総務部長、副市長を歴任し、平成28年に東温市長へ就任。2期目。まちづくりのテーマは“温か笑顔の東温市”。趣味はスポーツ（サッカー）。

2期目のスタート。今の気持ちは？

もう一度初心に立ち返り、市民の皆様と約束した公約を果たすため、2期目も精一杯、全力前進で取り組んでまいります。

1期目を振り返り、嬉しかった出来事は？

国にさまざまな要望をしてきた中で、国土交通大臣からスマートICの接続許可をいただいたことにより、防災や医療の課題を含め、地域経済の活性化、人口減少対策にも大きくつながると考えます。

逆に困難だったことは？

競艇場外舟券売り場の是非の判断と新型コロナウイルス感染症対策です。感染症は、まずは子ども、高齢者を守ることを一番に考えました。また、市外から働きに来る方も守らなければなりません。コロナ対策は、これからも「withコロナ」で対応していく必要があります。予測のつかない状況ですが、しっかりと対応してまいります。

「先人が築いた東温市をさらに良くし、次代へ引き継ぐ」の言葉

葉に込めた思いは？

近年多くのメディアで「住んでみたいまちランキング」などいろいろな指標がありますが、東温市は「住みよさランキング（東洋経済新報社）」で県下でもトップを走っていました。今の東温市が住みやすいのは、先人の皆様が旧町時代から築いたものがあるからこそだと思っています。私も重信町に生まれ、当たり前のように過ごしてきましたが、

学生時代に県外へ出たことでふるさとの魅力を再確認できました。我々世代がさらに良くして次世代につなげるためにも、私を含めた市職員全員「オール東温」で果たさなければならぬ大きな役目だと思っています。

次代の若者へ向けたメッセージをお願いします。

次のリーダーに出てきてほしい。東温市をよく知って

先の見えない時代で求められるのは

地域の協働力



らい、さらに良くしてほしい。東温市を熟知した若者にリーダーシップをとっていただきたいですね。

「健康日本」のまちづくり。これからの施策で取り組むポイントを教えてください。

東温市は他市に比べても、格段に良い医療環境・介護環境が整っております。そういった資源を活かしつつ「健康をつくる」方向に持っていくことに力を入れていきます。今後「団塊の世代」が後期高齢者の仲間入りをしていきます。群れて、騒いで、地域で交流すること、活力を生み、健康をつくっていくてほしいです。我々よりも上の世代には、90歳後半でも要介護認定を受けてない方がいらつやいますし、皆様が自分で自分の健康をつくることのできるような施策に取り組んでいきます。

2期目で特に解決したい課題は？

「合併後の一体化」を大きな目標として掲げています。昭和31年の合併で重信地区は「南吉井村・北吉井村・拝志村」、川内町は「川上村・三内村・中

最後に市民の皆さんへメッセージをお願いします。

川村の一部が旧町になりました。合併後の一体化には時間がかかるものと思っています。今後も光ファイバーの延伸などハード・ソフトの両面から、さらに一体感が進むまちづくりに取り組んでまいります。

宅地分譲が進み、東温市へ転入された方も多いため、来られた方に東温市の良さを知っていただき、今まで以上に好きになってもらいたいです。そのためには、市民の皆様と議員と市職員が一体となって「安全に、安心に、幸せに」暮らしていただける東温市になるよう、協働のまちづくりを進めたいと考えています。もう一つは災害時の「自助・共助・公助」に「近助」という考え方も加えています。自分で自分を守る「自助」、家族や隣近所で助け合う「近助」、区民や防災士さんの力を借りて行う「共助」、行政が行う「公助」です。東温市は防災資源にも恵まれています。皆様で支え合いながら「東温市で幸せに暮らせるまちづくり」を進めていきます。